



福山大学

FUKUYAMA UNIVERSITY

学 報

2016.12.10 Vol. **150**

三蔵五訓

真理を探究し、道理を実践する。
豊かな品性を養い、不屈の魂を育てる。
生命を尊重し、自然を畏敬する。
個性を伸展し、紐帯性を培う。
未来を志向し、可能性に挑む。



揺るぎなく前進！

トピックス	1
第42回 三蔵祭	5
拡がる教育	7
地域連携活動	8
国際交流瓦版	10
学友会短信	11
頑張る福大生	12
訃報	14
後援会情報	15
入試広報室から	15



福山大学イメージキャラクター
「ふくりん」

第2回 福山大学研究成果発表会を開催！

2016年度第2回福山大学研究成果発表会「産学連携の接点はここにあり!!」が、平成28年6月29日(水)に福山市ものづくり交流館(エフピコRiM7階)において開催されました。この研究成果発表会は、本学の5学部14学科の教員による研究成果を備後地域の企業及び高校生や地域住民に向けて発信していくことを目的とした研究成果の発表会です。また、5月19日(木)には広島銀行と包括協定を締結しましたので、福山大学と広島銀行による連携企画となっています。この締結によって連携基盤は厚みを増し、産官学金等によるシーズとニーズのマッチングの多様化を図るとともに、備後圏域の高校生に本学教員の研究内容を紹介して、高校生がイメージする各学部を具体的に理解してもらうことも期待して開催されました。

昨年度に続き、今年度の研究成果発表会も前半の講演会と後半の研究成果ポスターセッションに分けられ、前半の講演会は7階フロアのセミナールームAで行われました。講演に先立ち、町支臣成社会連携センター長(薬学部教授)より研究成果発表会の開催経緯、概要説明及び発表会の開催に合わせて作成した研究成果発表集と研究者情報一覧の紹介などを含めた挨拶があり、松田文字学長より研究成果発表会の意義と福山大学と広島銀行の包括協定の締結によって産官学+「金」の連携の礎ができたことなどの挨拶がありました。講演会は2演題行われ、その講演者2人の紹介は、都祭弘幸社会連携センター副センター長(建築学科教授)より行われました。

最初の講演者は、一般財団法人ひろぎん経済研究所の理事であり、経済調査部長である谷口康雄氏で「備後圏域のポテンシャル」と題した講演を行っていただきました。講演は、備後圏域8市町に押し寄せる人口減少の波に対する備後圏域の現状とポテンシャルを踏まえた備後圏域の連携による地域活性化(ものづくり産業、農業、観光、食)及び備後の地域資源を生かした圏域づくりについてでした。次の講演者は、本学の学長補佐で生命工学部生物工学科の山本寛教授で「一億総活躍社会と六次産業～人材を活用する地域の産業構造を目指して～」と題した講演を行っていただきました。講演は、若者・高齢者・女性・男性・障害のある方・一度失敗を経験した方も、一人ひとりが家庭・地域・職場で自分の力を発揮し、生きがいを持てる社会の実現を目指すという政府方針骨子の「一億総活躍社会」を実現させるための重点施策として発表された新しい3本の矢の「希望を生み出す強い経済」、「夢をつむぐ子育て支援」、「安心につながる社会保障」を引用しつつ、経済を発展させる条件や新しい産業としての六次産業、福山大学で栽培するブドウから地域連携によるワイン醸造の紹介、そのための農業に取り組む企業や人材の育成などについてでした。この2演題の講演会が行われたセミナールームAの会場は、備後圏域内外から産官学金の多くの聴講者によって満席状態でした。

さらに、前半の講演会に続き、後半の研究成果ポスターセッションが行われた市民ギャラリーは、2つの市民ギャラリーA

間及びB間の仕切りを外した広いフロア会場となっており、講演会場と研究成果ポスターセッション会場の受付では、聴講者へ2016年度版研究成果発表集及び2016年度版研究者情報一覧といった冊子、発表会資料やアンケート等を配布しました。研究成果ポスターセッションの発表総数は、昨年度より11題多い61題あり、それぞれの教員は来場者へ研究を行うまでの背景や研究目的及び研究成果や研究成果の応用、さらには共同研究や受託研究へつながる可能性等をわかりやすく発表するとともに、教員間では学部を超えた意見交換も行われました。

今回の研究成果発表会の来場者数は、講演会が約120名で、研究成果ポスターセッションが約160名でした。研究内容を外部に情報発信する研究成果発表会は、他大学でも継続的に行われており、本学も継続して開催することが重要であると考えています。また、本学では5学部14学科がそろって発表するところに特徴があります。

来場者にご記入いただきましたアンケートによりすると、40代～60代の福山市内の男性がほとんどで、研究成果発表会は「とても良かった」が66%、「良かった」が27%、「普通」が7%でした。研究成果発表会に興味を持った理由は「研究に魅力」が73%、「役に立ちそう」が18%、「大学を知りたかった」が9%でした。発表者の対応・展示ポスターは「とても良かった」が62%、「良かった」が23%、「普通」が15%でした。さらに、研究成果ポスターセッションの理解を深めるための少数セミナーの企画に「興味がある」が約86%で、研究内容に興味を持たれている方が多くなっています。これらのことから、総じて研究成果発表会や発表者の対応・展示ポスターはとても良く、研究成果発表会への参加理由は研究に魅力を感じて来られた方が多く、少数セミナーの開催があれば参加してみたいと回答された方が多いことがわかりました。

福山大学の研究力を一般に公開する研究成果発表会は、来年度以降も継続的に開催する予定にしており、研究成果発表会によってシーズとニーズのマッチングができればと思っています。

社会連携センター 助教 中村 雅樹



文部科学省助成金の4年連続獲得により進む設備整備

国から大学への資金配分に関して、かつての平均主義ないし平等主義は今や通用しません。必要な資金を獲得したければ、競争に打ち勝って手に入れるほかない場面が多くなりました。そうした傾向の中で、平成24年度に文部科学省による私立大学等教育研究活性化設備整備事業の募集が始まり、さらに平成25年度からは「私立大学等改革総合支援事業」で、①建学の精神を生かした大学教育の質的転換、②地域発展への貢献、③産業界・内外大学等と連携した教育研究(平成26年度からは③が、③産業界・他大学等との連携と④グローバル化に細分化)の少なくとも1つで改革が進んでいる大学として支援対象校に選定された場合のみ、その領域で必要な設備整備について私立大学等教育研究活性化設備整備事業に応募が可能となりました。

多くの点検項目で、高得点を上げて支援対象校に選ばれるのは容易ではありません。幸いにも本学は、平成25年度からずっと少なくとも「教育の質的転換」で支援対象校に選ばれ、平成24年度から連続4年間、私立大学等教育研究活性化設備整備事業に採択されてきました。まず、平成24年度には、「仲間が集い、主体的学びを育む、アクティブ・キャンパスの形成」をテーマとする補助金申請が採択され、大学会館の3階にICT教室CLAFTが設置されました。CLAFTの名称は、申請テーマの英語表記である「Classroom for Learning Actively with Friends Together」の各単語の頭文字をとったものです。また、平成25年度の助成では、知識の修得に偏りがちな大学教育において、技能・態度の修得に重点を置くアクティブ・ラーニングを目指すグローバルコミュニケーションの促進を図りました。この結果が、2つのLL教室の改修による①グローバル語学学修支援システム(通称 GLLASS: Global Language Learning Active Support System)と②マルチメディア学修・教育システム(通称 MILES:

Multimedia Interactive Learning & Education System)の誕生でした。さらに、平成26年度の申請テーマは、アクティブ・ラーニング環境のさらなる充実による「協働プロセスを創出する複層的学修空間の構築」でした。この支援により、7号館の2階に「プロジェクトラウンジ」が作られました。次いで、平成27年度には、本学独自のインターンシッププログラムである「BINGO OPENインターンシップ」を支えている「自分未来創造室」の設備充実など、リニューアルが行われました。

これら4年間にわたる文部科学省助成金獲得の成果を生かし、本学の教育研究活動のさらなる活性化を図っていきましょう。

大学教育センター長 教授 大塚 豊



文部科学省の「学校施設の防災力強化プロジェクト」に安全安心防災教育研究センターが選定！

このたび、安全安心防災教育研究センターでは、福山市危機管理防災課、福山市教育委員会、福山市立今津小学校、今津学区自治会連合会と連携して、文部科学省の「学校施設の防災力強化プロジェクト」に応募し、採択されました。このプロジェクトは、近い将来に起こると予想されている南海トラフ巨大地震による津波被害を想定し、高台にあり津波避難場所である今津小学校への避難について考えるというものです。今津小学校のある松永地区は、過去の塩田の干拓地で海沿いには海拔0メートルに近い市街地が広がり、東日本大震災を経験して新たに検討された津波被害想定では、市街地の相当部分に浸水被害が出るのが予想されています。津波に対しては、とにかく高台に避難することが鉄則ですが、幸いにも備後地区は発生源である四国沖からは遠く、津波の到達までに3時間程度の余裕がありますので、昼間であれば避難はそれほど難しいものではありません。しかし、地震が夜間に発生し、その影響で停電が発生したとしたらどうでしょうか。さらに、今津地区は古くからの宿場町

であり、街路が狭く、古い木造建築の家屋が立ち並んでいるため、地震による強い揺れで倒壊したり、火災が発生したりして、避難経路を塞いでしまうという懸念もあり、このような非難を阻害する要因が重なったとき、3時間という時間は決して長いものとはいえません。このプロジェクトでは、避難を困難とする要因を考え、これに対する学校として備えのあるべき姿を追求していこうというものです。平成28年8月2日(火)に、文部科学省大臣官房文教施設企画部施設企画課防災推進室からも御列席をいただき、第1回の協議会を実施してプロジェクトをキックオフしました。プロジェクトは、アンケートによる地域住民の防災避難に関する意識調査及び地域住宅の構造・築年数等の耐震性の調査、アンケートに基づく避難経路リスクマップの作成、IT機器を駆使して避難経路での迷い要素を抽出する実地調査、夜間に懐中電灯による避難を模擬する特殊ゴーグルを着用して夜間の避難の困難性を今津小学校の児童に体感してもらう模擬避難、以上の結果に基づいた学校への避難に対する課題の抽出とそれに対する対策検討を行う検討会の実施という5つの事業で構成されます。今回、今津自治会の多大なご協力により、アンケートを地域住民の方々に配布・回収いただき、非常に多くの回答を得ることができました。本原稿の執筆段階では未だ集計中ですが、有益な調査結果が得られるものと期待されます。また、迷いの実地調査も実施中であり、模擬避難も準備を着々と進めているところです。今後の成果にご期待ください。



安全安心防災教育研究センター長 教授 仲嶋 一

JST「日本・アジア青少年サイエンス交流事業」を実施しました！

日本・アジア青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンスプラン)に、3年連続で採択されたことは前回の学報(福山大学学報第149号)で報告しましたが、今回は平成28年8月29日(月)～9月4日(日)に実施しましたベトナムのベトナム国家農業大学との交流内容を紹介いたします。

- 8月29日(1日目)：一行12名(学生10名・教員2名)は、ベトナムのハノイから韓国の仁川空港－広島空港経由で福山大学に到着しました。本学の大学会館2階で歓迎会が行われ、交流の幕開けです。その日の夕方は、尾道市の商店街をシティーウォークしました。
- 8月30日(2日目)：いよいよ研修が始まります。午前は、因島キャンパスの施設及び海岸などのフィールドを見学しました。午後は、日本の増養殖の現状について講義を受けるとともに、ベトナムの水産や養殖の概要を話してもらい、意見交換を行いました。
- 8月31日(3日目)：午前は、親魚と卵の管理や餌料と仔稚魚飼育の実習でした。因島キャンパスの大学院生や4年次生も大わらわで、飼育施設の中を案内し、サンプリングや観察を一緒に行いました。午後は、魚病と赤潮についての講義と充実した1日でした。
- 9月1日(4日目)：日本で盛んに行われているマダイの養殖場と、東南アジアで注目されているハタ類の種苗生産について、現場を視察しました。
- 9月2日(5日目)：午前は、広島市での平和学習でした。午後は、広島市から福山大学に戻り、プログラムの総括を行いました。参加者の皆さんからは、感想やプログラムの改善点についてコメントをいただきました。
- 9月3日(6日目)：鞆の浦に向かい、歴史散策を行いました。当日は台風の影響か、鞆の浦にしては珍しく強風が吹く1日でした。午後は、関西空港へ移動しました。
- 9月4日(7日目)：いよいよお別れの時がきました。長いよ

うで短くも感じられる来日でしたが、「素晴らしい研修だった。是非、また来たい。」とのコメントもいただきました。涙ぐんで、いつまでもゲートに入らない学生を急がせて、さくらサイエンスプランはめでたく終了しました。



さくらサイエンスプランは無事に終了しましたが、これはあくまでもベトナム国家農業大学と福山大学との交流のスタートです。プログラムの間も、今後についての意見交換を行いました。「鉄は熱いうちに打て」のことわざに従い、無事帰国のメールを起点に早速、今後についてのやり取りを始めています。海産魚類の養殖技術を柱に、交流課題が両者の間で固まりつつあり、まずはモデル魚種を選定し、問題抽出と解決へのチャレンジに着手したいと考えています。ベトナム国家農業大学からの便りに「今度は私たちが汗をかくから、早くこちらに来てください。」との言葉がありました。「楽しみにしています。」と返信しています。

海洋生物科学科 教授 有瀧 真人



経済学部生、バリ島研修へ～グローバル人材へのヒント～

経済学部によるインドネシアへのバリ島研修も4回目となりました。回を重ねるごとに内容も充実し、学生の満足度もアップしてきました。今回は平成28年9月4日(日)～12日(月)の8泊9日の日程で、21名の学生(1年次生16名・2年次生1名・3年次生4名)と一緒に中国の上海経由で行ってきました。

初日は、国立ポリテクニク大学での文化研修、交流会、英語の授業でした。午後からは、提携校のサラスワティ外国語大学での交流会とグループディスカッションでした。初日にちょっと欲張りすぎました！

毎年のことですが、バリの学生の積極性とフレンドリーさには驚かされます。本学の学生もはじめは圧倒されていましたが、すぐに打ち解けて仲良くなりました。価値観の異なる友達をつくるというのが、この研修の目的の1つです。今回の研修は、少し欲張って2つの大学と交流しました。ポリテクニク大学の学生は、観光学科の学生で英語しか話せません。サラス



ワティ外国語大学の学生は、日本語学科なので日本語が話せません。これにより、英語と日本語でバランスよく交流ができました。また、ちょうどガルンガン(日本でいうお盆)にあたったので、バリの学生の自宅を訪問してお祭りの準備を手伝ったり、お祭りの料理をいただいたりと、ツアーではできないような経験もしました。

バリ島研修では、毎年必ずボランティア活動にも参加しています。今回は、サラスワティ外国語大学の学生と一緒にサヌールビーチでゴミ拾いをしました。リゾートのビーチは清掃されていますが、現地の人たちが泳ぎに行くビーチには漂着物がいっぱい、かなり汚れています。バリの海は日本につながっています。日本人の環境意識の高さをバリの人たちに伝えるチャンスですね。ゴミ拾いの後は、ゲームで盛り上がりました。

ポリテクニク大学では、毎日英語の授業と文化体験を実施しました。バリ料理体験、伝統舞踊体験、フルーツカーヴィング、お供え作り、ウブド遠足などです。バリの大学生に習いながら様々な体験をして、学生たちは本当に楽しそうでした。同じ世代の友達と一緒に文化を学ぶという体験は、彼らにとって貴重なものになったはずです。

研修を終えた学生たちの日焼けした顔には、少し自信のようなものが感じられました。帰りの空港にはバリの学生たちが見送りに来てくれて、新しい友達との別れを惜しんでいました。彼らは「帰りたくない。」「きっとまたバリ島に来る!」と口々に言っていました。次に来る時には「お帰りなさい。」と言ってくれる友達がいるのは素敵なことですね！

8泊9日の研修はあっという間に終わりましたが、「グローバル人材とは何か?」ほんの少しだけでも、ヒントを見つけてくれたことでしょうか！

国際経済学科 教授 足立 浩一

犯罪心理学研究室のPACE福山支部が「広島県共同募金会の社会課題解決プロジェクト」に6年連続で採択！

犯罪心理学研究室のPACE福山支部が、広島県共同募金会(赤い羽根共同募金)の「社会課題解決プロジェクト」の参加団体に採用されました。社会課題の中でも、「子どもの防犯対策」に焦点を絞って応募し、2011年に初めて参加団体に採択されて以来、今年で6年連続の採択となりました。今年は、採択団体数が15団体に絞られ、大変厳しい選考となりましたが、第一次の書類審査と第二次の面接選考を突破して、学生団体として唯一の採択となりました。毎年、15校程度の小学校で約1,000名の児童を指導している実績が高く評価されたと思います。今後は、広島県共同募金会の指導を受けながら、2017年1月から3月に実施する募金活動用のポスターとリーフレットの作成を行います。そして、例年と同様に活動の趣旨と募金を依頼する挨拶文を考え、小学校、教育委員会、市役所、公民館、警察署などを訪問して回ります。

ところで、PACE福山支部は、2006年10月に発足した大学生による子どもの安全を守るボランティア団体です。福山市近郊の小学校を対象として、「地域安全マップ」の指導を主に継続しており、現在までに100校以上の小学校へ出向いてきました。大学で学んだ犯罪心理学の理論を応用した指導は、学生が大学での学修を通して、地域の安全・安心まちづくりに貢献するサービス・ラーニングの良い事例となっています。この活動は、2016年刊行の『犯罪心理学事典』(日本犯罪心理学会編、丸善出版)でも紹介されています。学生たちは、活動を通じて多くの人と出会い、人と接する態度を身につけるとともに小学校の授業を任されるという責任感を全うし、大いなる成長を遂げています。そして、卒業生には、教員、警察官、科学捜査研究所研究員(静岡県警・熊本県警)など、活動に関連した職業に就いている人も多くいます。また、今年のプロジェクリーダーである

青木七菜さん(島根県立大東高等学校出身)も島根県警察少年補導員に採用が決まっています。青木さんは、非行少年等の学習支援を行う少年サポートセンターふくやまでも大学生ボランティアとして参加していて、後輩の良きモデルとなっています。

また、PACE福山支部は、2009年に広島県知事表彰(社会貢献活動)、2010年に春季善行表彰(社団法人日本善行会)、2013年に福山善行市民賞、2014年に内閣府特命担当大臣より「平成26年度社会貢献青少年表彰」を授与されています。なお、PACE福山支部は赤い羽根共同募金会のCM団体としても選定され、「福山のあかいはね女子」というCMがYouTubeで視聴可能です。是非、ご覧ください。



心理学科 教授 平 伸二



総理大臣杯全日本大学サッカートーナメントへ出場！

サッカー部が平成28年度中国大学サッカー選手権で優勝し、平成28年8月6日(土)から行われました第40回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント(平成28年8月6日(土)～14日(日)・ヤンマースタジアム長居他)へ出場(2年ぶり6回目)し、九州第1代表の鹿屋体育大学と対戦しました。鹿屋体育大学とは、2年前の同大会と昨年の全日本大学サッカー選手権大会でも対戦していますが、勝利には至っておらず、今回こそはと熱が入りました。試合は前半17分に先制点を許し、同38分にも追加点を奪われる苦しい展開となりました。後半も何とか同

点、逆転に向けて攻め込みましたが、ゴールネットを最後まで揺らすことはできず、0-2というスコアで敗退となりました。

残念ながら、今回も1回戦敗退という結果にはなりましたが、選手たちは良く頑張ってくれたと思います。今後のサッカー部に期待しましょう。

総務部 企画・文書課



第42回 三蔵祭

三蔵祭を終えて

日増しに寒さが身にしみるようになり、温かい鍋やこたつが恋しい季節になりました。皆さん、いかがお過ごしでしょうか？三蔵祭が終わってからもう1カ月になりますが、私は未だに三蔵祭のことで「何かやり残したことはないか。」「忘れていないか。」と、ふとした時に思うことがあります。ただ、来年にはもうそのようなことも考えなくなるというのはほんの少し寂しくなります。

振り返ってみると、今年の4月からの約半年間は一瞬の出来事のようにも思いますが、楽な仕事ばかりではありませんでした。正直、今年の三蔵祭期間の3日間はこれまで運営委員として携わった、どの3日間よりも濃く、そして大変でした。委員長として運営委員をまとめながらも所属する企画部としての活動もあり、三蔵祭運営委員の模擬店の責任者としての職務

もありました。それでも、私が最後まで頑張ることができたのは節々で声を掛けてくれた、そして協力してくれた第42回福山大学三蔵祭運営委員全員の助けがあったからだと思います。そして、私だけではなく第42回福山大学三蔵祭そのものを支えて協力してくださった学生課の方をはじめとした福山大学を運営される多くの方々、三蔵祭に協賛していただいた企業の皆様、そして三蔵祭にお越しくくださった来場者の皆様、すべての方に心より感謝いたします。本当にありがとうございました。

最後に、来年度の運営委員長が三蔵祭を今年以上に大いに盛り上げてくれるであろうと期待しています。



第42回三蔵祭運営委員会 委員長 税務会計学科 3年 光成 拓也

経済学部 吉田秀彦氏の柔道教室を開催！

平成28年10月16日(日)に、バルセロナオリンピック柔道金メダリストの吉田秀彦氏をお招きし、柔道に対する見識を深めることを目的とした柔道教室を開催しました。吉田氏は、経済学科の中村和裕先生のお師匠です。備後地域の柔道家を対象に、吉田氏の柔道に対する考え方や取り組み方、そして実際の技の披露をしていただきました。司会をするにあたって、柔道教室



の進め方や司会進行の台本作りなどの事前準備を行いました。午前は、柔道の畳を体育館に敷き詰める作業や駐車場管理などの会場設営を担当しました。午後は、吉田氏と柔道教室本番の進行の流れや確認・

打ち合わせを行いました。たくさんのボランティアの方々に会場設営の準備を手伝っていただいたお陰で、スムーズに設営することができ感謝しています。柔道教室は、小・中学生や高校生を対象に開催し、小・中学生が飽きないような司会進行を心がけました。短い時間での開催ではありましたが、もっと小・中学生が参加できるような企画を盛り込めるように、次回に向けて改善していきたいです。

柔道教室全体を通してイベントを成功させるためには、裏方で動いてくださった人などたくさんの方々を支えられていることがわかりました。また、吉田氏は小・中学生へ夢を持つことの大切さと実現するための心構えについて語ってくださいました。これは、私にも当てはまることだと思いました。夢の実現のために一日を大切に、これからも頑張っていきたいと思います。

経済学科 2年 坂本 普郁

人間文化学部 毎年恒例、心理学式お化け屋敷

心理学科では、毎年恒例の2年次生を中心とした「心理学式お化け屋敷」第4弾を行いました。これまで先輩方が築き上げてきたお化け屋敷を越えるという気持ちで、夏休みから集まり、ストーリーや準備するものなどを話し合いました。三蔵祭前日は、全員で一日かけて夜遅くまで準備を行いました。そして、初日はいろいろな問題が起きながらも無事に成功させることができました。さらに、2日目も初日に反省点や改善点があったので、そこを重点的に注意し、何事もなく終えることができました。2日間ともにたくさんのお客さんにお越しいただき、最高30分待ちになることもありました。「こわい！」と泣き叫びながら出てくるお客さんを見るたび、作っている側としてはとてもうれしくなりました。足を運んでくださった方々、本当にありがとうございました。

私としては、行事でこんなにも大人数を仕切っていくということも初めてのことで、不安や悩みはたくさんありましたが、心理学科の人たちが支えてくれましたし、何より一人ひとりがよりよい物を作ろうと必死に頑張ってくれたお陰だと思っています。それぞれの役割の人たちが「こうしたい。」や「もっとこうすればよいのではないか。」と意欲的に参加してくれたことも私の支えでした。この三蔵祭を通して学科内の絆も深まり、衝突

することもありましたが、みんなでひとつのものを作り上げるということの達成感や存分に味わえたのではないかと思います。これが次の世代にも伝わっていけばいいと思いましたし、貴重な体験ができてよかったです。

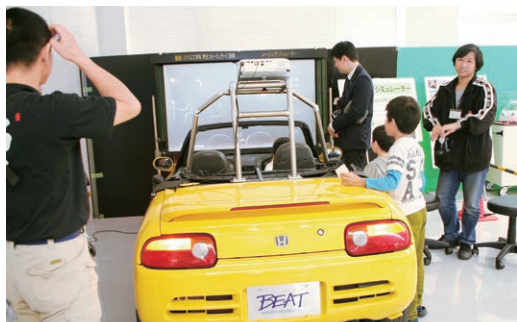
心理学科 2年 松嶋 雛乃



工学部 大学祭に参加して

この度、機械システム工学科では、2つに分けて展示・ブースを出しました。

1つ目は、学生フォーミュラーに挑戦するための試作で製作された「ZERO」という車両を初めて一般公開しました。来場してくださった方々は、興味津々に車両を見に来てくださいました。たまたに、エンジンをかけて周りの人たちにエンジン音を聞かせてみました。また、実際に試走しているところを見



てもらいたかったのですが、それはできませんでした。2つ目は、HONDAの「ビート」という軽自動車を改造して本格的なドライビングシミュレーターを製作しました。ビートからエンジンだけを降ろし、見た目はほとんど変えず、運転席の後ろ側を使用してプロジェクターを設置しました。運転席には、ゲームで使用するハンドルを設置し、アクセルとブレーキにはビートについていたペダルをそのまま使用してゲームができるようにしました。ほとんどがフル稼働状態になりましたが、多くの来場者に来てくださり「楽しかった!」「すごくリアルだった!」「こんなゲーム見たことない!」など様々なうれしい感想をいただきました。来場された方々のほとんどは親子連れでしたが、1回遊んだ子どもたちが何回も機械システム工学科のブースに遊びに来てくれました。三蔵祭に来ていた子どもたちが、このような活動を見て興味がわいてくれたらいいと思います。これからもみんなを楽しませたり、驚かせるような活動に挑戦して、今後の福山大学を盛り上げられるように頑張っていこうと思います。

来年の三蔵祭もお楽しみに!!!!

機械システム工学科 4年 四辻 誠也

生命工学部 水の生き物はおもしろい!

私たち海洋生物科学科では、「アクアフェスタ2016」と題し、実物展示やクイズを活用して水の生き物に親しんでもらえるような企画を行いました。私が参加した1年次生による展示では、毎年恒例の「金魚すくい」に加えて、リオデジャネイロオリンピックにちなんで、開催地ブラジルとその周辺に生息する熱帯魚を展示した「南米の魚たち」や、クイズを通して私たちに身近な福山周辺の魚たちについて学ぶ「魚(うお)〜くらり〜」の3つの企画を行いました。

展示の準備では、「みんなの予定が合わない」「意見が合わない」などといった学園祭ではありがちな問題に加えて、「展示するはずの生き物が捕まらない」や「魚の体調がよくない」といった生き物を扱う展示特有のトラブルも多々ありました。しかし、先生方や先輩の皆さんのサポートとグループ内の結束によって何とか乗り越えることができました。当日は、子どもから大人までたくさんのお客さんが見学に来てくださいました。来場されたお客さんは、クイズ用紙を手に福山の魚たちを観察し、また個性豊かな熱帯魚たちの世界を楽しんでいました。

今回の発表を通して、私たちは生き物を扱うことの責任、人

に何かを伝えることの難しさ、そしてみんなで一つのことをやりとげる達成感など、多くのことを学ぶことができました。また、自分の大好きな魚の話をする事でお客さんに喜んでもらえたという体験は、水族館のスタッフになるという夢を持つ私にとって、何より貴重な体験であったと思います。

これらの体験を生かして、これからも夢に向かって挑戦を続けていきたいです。

海洋生物科学科 1年 岩間 朝吉



おみやげのプラ板づくりも大人気でした

薬学部 運営班が模擬店で総合優勝!

私たち薬学部運営班は、10号館で様々な企画を行いました。ご来場の方々に協力していただきながら、「骨密度測定」と「骨の理解度テスト」を実施しました。理解度テストは、私たちの「骨の健康に関する説明」の前後に行うことで、説明により理解していただけたのかを調査しました。調査の結果、多くの方々に理解していただけたことがわかり、ホッとしました。その他



には、「体力測定」、火傷に効く「紫雲膏」の調製、「感染症とその予防法」の企画展示を行いました。企画の最後は、「ガラガラくじ」を回していただきました。ここでは、ご来場の方々と最もコミュニケーションを取ることができ、企画に関する感想もいただくことができました。その声を来年度の学園祭に生かしていきたいです。また、模擬店では毎年恒例の「ナンカレー」と、さらに今年は「レモネード」を販売して、見事に総合優勝をいただくことができました。みんなで勝ち取った名誉です。ありがとうございました。

私たち運営班の活動は後期から始まっており、学園祭までの約1カ月です。1年次生は、春の新人歓迎会から約半年ぶりに先輩たちと顔を合わせ、先輩たちのリードのもとに活動してきました。企画準備として、会場の設営や装飾、パンフレット作成、受付など多くのことをみんなで協力して行いました。多くの活動内容でしたが、無事に成功を修めることができたのは、約50名の運営班全員の協力のおかげだと思っています。この団結力のある運営班は、来年も今年以上の企画を考えて盛り上がりを見せますので、是非、ご期待ください。

薬学科 3年 馬場 睦

全日本製造業コマ大戦福山大学場所

今年も大学祭で、全日本製造業コマ大戦福山大学場所を実施しました。小学生から一般まで多くの参加者がありましたが、大学からは「みらい工学教育PJコマ大戦に挑戦」を履修した学生や「モノづくり倶楽部」の学生が参加しました。優勝は企業の参加者でしたが、小学生や本学の学生が企業チームに勝つ試合もあり、大変盛り上がった大会となりました。

機械システム工学科 講師 小林 正明



第15回 ロボットコンテスト



今年で、ロボットコンテストは15回目となりました。今まで多くの中学生や高校生に参加していただきましたが、今年も中学校2校と高等学校1校、計3校の参加がありました。

今年のテーマは、ペットボトルを運搬するスピードと正確さを競うものです。ペットボトルを運搬する方法も各チーム様々で、個性的なロボットがそろいました。優勝は、英数館中学校のYAMA-MONでした。

機械システム工学科 講師 小林 正明

第11回 高校生CMコンテスト

恒例の「高校生CMコンテスト」を開催し、多数の応募が集まりました。厳正な審査の結果、各賞が選ばれました。

また、今年度は三蔵祭の期間中だった平成28年10月16日(日)に、大学会館3階のICT教室CLAFTにおいて表彰式を開催し、入賞作品を上映して紹介及び講評を行いました。

なお、受賞作品の詳細は、本学科のウェブサイトをご覧ください。

<http://www.fukuyama-u.ac.jp/media/original/cm2016.html>



メディア・映像学科 准教授 内垣戸 貴之



地域連携活動

「福山大学公開講座」について

福山大学公開講座が、福山大学と三原市中央公民館中講堂の2会場で、平成28年9月中旬から10月下旬にかけて「ひと・まち・くらし3」というテーマで開講されました。本講座は、福山大学教員の研究成果を地域社会に公開し、社会の人々に生活及び職業上の専門的な知識と一般教養を高める学習機会を提供し、生涯学習の振興と文化的、産業・経済的な発展に寄与する目的で開講されています。概要としては「ひと・まち・くらし」をキーワードとして、地域の産業界や近隣の自治体組織と連携して知的資源を地域に提供したり、地域で活躍できる幅広い人材を育成したりするなど、地域の活性化につながるようなテーマで取り組みました。そして、昨年度はこのテーマで福山大学が地域と連携した様々なプロジェクト活動を紹介し、非常に好評でした。さらに、今年度についてもこのテーマを広げ、福山を含む備後地方の人々の暮らしに関わるトピックスを様々な観点から紹介しました。

今年度のテーマ及び講師は、次のとおりです。

回	福山	三原	講座名	講師
1	9/24	9/28	昔話を通して学ぶ生涯発達心理学	人間文化学部 赤澤淳子 教授
2	10/ 1	10/ 5	くすりのこと、正しく知って正しく使おう	薬学部 長崎信浩 教授
3	10/ 8	10/12	備後地域の交通安全問題とその科学的対策	工学部 内田博志 教授
4	10/22	10/19	備後地域の食文化と伝えたい継ぎたい家庭料理	生命工学部 石井香代子 准教授
5	10/29	10/26	地方都市におけるまちなかスタジアム建設の現状と課題	経済学部 藤本倫史 助教

また、閉講式において5回中4回以上の出席者に、修了証書を授与しました。会場ごとの延べ出席者数及び修了証書授与者数は、福山会場では延べ出席者数587名、修了証書授与者数102名、三原会場では延べ出席者数245名、修了証書授与者数38名でした。来年度も、地域の方々への情報発信の場として貢献していきたいと思っております。

総務部 企画・文書課

「備後経済論」について

『備後経済論』は、経済学部生が地元企業、さらに備後経済に対する理解を深めるとともに、就職活動の参考にすることを目的として地元企業の経営者等を講師に招き、企業立ち上げの苦心談、経営理念、若い世代へのメッセージ等を熱く語りかけてもらう形式の講義です。また、本講義は学生だけでなく、一般の方も聴講いただけます。

平成15年度に、経済学科の平田宏二教授の手掛けと苦心により開講して以来、13年目を迎えました。平成15年度～27年度までに招聘した地元企業経営者や業界団体関係者数は、計148名にも上ります。地域に密着・貢献する地方総合大学としての福山大学が、地元企業経営者や業界団体に大いに期待されている何よりの証拠といえましょう。さらに、平成19年度からは、毎年『備後経済論講義録』も刊行されており、近年、経済学部内にとどまらず、名物講義として地域社会からも幅広い支持と高い評価を受けるようになってきています。

今年度は、税務会計学科の小林正和教授からバトンを受け取り、「モノづくり」をテーマに備後地域の企業経営者へ講義の依頼

を直接行ってきました。今年度の日程は下記の通りです。合計13社の企業経営者による講義が行われ、いずれの企業からも経済学部の学生だけでなく、工学部の学生をはじめとする全学生、また社会人にも聴講してほしいという強い要望がありました。

「自分にとってカンフル剤になるようなもの。」「社会人になってから作っている側の話を聞いて営業を頑張ろうと考えました。」「社会の動きにとっても鋭く、その流れに乗るセンスがものすごい。」「海外では自分の育った環境での常識は通用しない。当たり前が当たり前ではない。」「海外では柔軟な頭、そして人との関わりが特に大事だと強く感じた。」など、講師による企業経営をめぐる苦心談や熱いメッセージに対して、学生は非常に熱心に聞き入って積極的に吸収しています。

税務会計学科 准教授 張 楓

平成28年度の講義

- 時間：木曜日4時限（午後2時40分から午後4時10分 ※教養講座開催日は時間変更の場合あり）
- 場所：福山大学1号館01101教室

月 日	講 師	社 名	役 職	主な事業内容
9月29日	張楓	講義（はじめに）	-	-
10月6日	崎谷文雄	ローツェ(株)	代表取締役会長	半導体・液晶/パネル製造用搬送装置製造
10月13日	藤井修造	(株)アドテックプラズマテクノロジー	代表取締役社長	プラズマ用高周波電源などの製造
10月20日	重政義文	(株)重政商店	代表取締役社長	切削・測定・省力機械工具商
10月27日	河田一実	福山熱線工業(株)	代表取締役社長	熱処理
11月10日	井上亮	(株)井上鉄工所	代表取締役社長	各種歯車などの加工・製作
11月17日	松岡大悟	(株)マイナス600ミリボルト	代表取締役社長	清涼飲料水および化粧品販売
11月24日	小川博之	JFEスチール(株)西日本製鉄所	常務執行役員 備後地区所長	鉄鋼製造
12月1日	菊田晴中	(株)明和工作所	代表取締役社長	歯車製造・機械加工
12月8日	菅田雅夫	ホーコス(株)	代表取締役社長	工作機械製造・販売
12月15日	土井啓嗣	土井木工(株)	代表取締役社長	高級家具製造・販売
1月5日	吉井宏政	(株)オメガ・システム	代表取締役社長	各種専用機械の設計・製造
1月12日	大下真司	(株)大下木型製作所	代表取締役専務	木型製作
1月19日	河野健二	常石造船(株)	代表取締役社長	造船
1月26日	張楓	講義（おわりに）	-	-



「BINGO OPEN インターンシップ」について

今年度で7年目を迎えるBINGO OPEN インターンシップは、学生一人一人の可能性を伸ばす貴重な学びの機会と捉え、他大学にはないインターンシップ合同企業説明会、事前研修、事後研修、学内発表及びインターンシップ4大学合同成果報告会を開催し、実習での気づきや学びを確かな力として定着させる独自の研修プログラムを展開しています。

平成28年5月に、インターンシップ合同企業説明会を大学会館で開催しました。今年度は過去最多となる44社の企業が参加し、さらに福山大学及び福山平成大学からは約400名の学生も参加しました。企業担当者からは、直接企業の説明やインターンシップの内容について、説明を受けたり質問をしたりと就活のシミュレーションにもなりました。

学生は、この合同企業説明会や募集要項をもとに自分の目的に合ったインターンシップ先を探し、志望動機や自己PR文を書くエントリーシートを作成し、学内選考と企業選考によりインターンシップ先の企業が決まります。今年度は、夏季休業中に延べ138名の学生がインターンシップ研修を体験しました。参加学生数は昨年の126名に比べて増え、特に今年度は1年次生や留学生の参加が増え、自分の将来像を意識する学生が増えています。さらに、インターンシップ参加の目的意識付けとして、インターンシップ研修の直前である8月上旬の2日間ですべて事前研修を行いました。4社の企業担当者の方に参加いただき、パネルディスカッション形式で「社会人として必要な常識とは」と題した講演や質疑応答、昨年のインターンシップに参加した学生による体験談発表、インターンシップ中に得たい目標設定及びマナー研修を実施しました。加えて、インターンシップ期間中には毎日、目標設定の達成度やモチベーションの振り返りレポートを作成しました。そして、研修後の9月には事後研修を実施し、インターンシップの振り返りをグループワーク



で行い、他の学生と共有することで、自分の経験を他の人からの新たな視点からの気づきや他の人の経験からの気づきを得る機会としました。また、学内発表を10月24日(月)～28日(金)に実施し、インターンシップに参加した仲間や後輩に向けて体験談や成果を披露しました。最後に、今年度の成果のとりまとめと来年度以降の布石として、12月17日(土)には今年初めて備後の4大学によるインターンシップ4大学合同成果報告会を実施する予定にしています。本学が主体となって、福山大学、福山平成大学、尾道市立大学及び福山市立大学の学生が発表を行います。

こうした一連のインターンシップ体験は、自分を客観的に見つめ直す機会でもあり、「自分の強みは何か」、「自分に足りないものは何か」を理解し、今後の大学生活やキャリア形成を考える機会にもなっています。

キャリア形成支援委員長 講師 津田 将行

「びんご圏域連携グローバル人材育成事業」について

福山市の補助事業として行われるグローバル人材育成事業「国際経営における人材の育成と備後企業の取り組み」では、福山大学、福山平成大学、尾道市立大学、福山市立大学の4大学が連携し、各大学の学生と備後地域の社会人がともに国際ビジネスの現場について学びます。講義は、学校法人福山大学宮地茂記念館において、平成28年10月以降の毎週土曜日の午前中に実施されます。1時限目は毎回、国際経営・国際経済に精通した大学教授を招き、基礎理論だけでなく最新理論や研究成果についての講義を聞きます。2時限目はケーススタディとして、海外進出を加速させる備後地域の様々な企業から講師を招き、海外ビジネスの現場や求められるグローバル人材の資質について話します。

今年度の受講生は、大学生54名及び社会人2名の計56名でした。大学教授による講義は、兵庫県立大学の梅野巨利教授による3回の講義と、福山大学の中沢孝夫教授及び萩野覚教授、神戸大学の黄磷教授、東京大学の新宅純二郎教授による各1回の講義が行われました。梅野教授の講義では、最初にテーマを設

定して学生に通知し、ケーススタディの質疑応答後、少人数のグループに分かれてそのテーマに基づいた議論と報告をするスモール・グループ・ディスカッション(SGD)を行いました。テーマは、各ケーススタディに関連しており、報告に対して企業講師による解説やアドバイスがいただけます。他大学の学生や社会人とのディスカッションは、終了時間をオーバーするほど白熱することもありました。

備後企業のケーススタディでは、講義順に(株)広島銀行、(株)北川鉄工所、(株)シギヤ精機製作所、佐藤産業(株)、ホーコス(株)、(株)キャステム、早川ゴム(株)、リョービ(株)にお願いしました。備後企業の海外展開の実際を現場の臨場感たっぷりに説明していただき、その後の質疑応答も非常に活発に行われ、学生にとっては具体的な企業研究ができる、またとない機会となりました。

また、本事業のユニークな特徴は、15回の講義終了後に海外研修を実施する点です。参加希望者には、福山市からの補助金により渡航費用の半額が免除されます。本年度は、12月10日(土)～17日(土)までの予定で、タイ王国の現地進出日本企業を訪問調査します。訪問先は(株)キャステム、(株)北川鉄工所、マツダ(株)、リョービ(株)、ホーコス(株)、日東製鋼(株)に加え、国際協力機構(JICA)や日本貿易振興機構(JETRO)を予定しています。実地での企業研修は、将来、海外で働く自分の姿を具体的にイメージする機会でもあり、学生がグローバル人材に大きく近づくきっかけになることを期待しています。

国際経済学科 教授 尾田 温俊



- ◆国際センター留学生部主催の「広島地域視察ツアー」へ、岩本博行国際センター長と趙建紅国際センター留学生部副部長の引率のもと、29名の新入留學生が参加。広島県の二大世界遺産の原爆ドームと厳島神社を視察。



(6月4日)

- ◆中国・江西師範大学と双方の學生が条件を満たせば、卒業時に双方の大学の学位を同時に取得できるダブルディグリー制度の學術教育協定を締結。

(6月28日)

- ◆(公財)ひろしま国際センターの奨學生交流会へ、ハサン・モハマド・カマルさん(スマートシステム学科/2年/バングラデシュ出身)ら4名が、趙建紅国際センター留学生部副部長とともに出席。

- ◆陳儒雅さん(人間文化学科/4年/中国出身)ら2名の留學生が、盈進中学校・高等学校の『24時間英語合宿』に英語のティーチングアシスタントとして参加。



(7月16日)

- ◆アメリカ・カリフォルニア大学リバーサイド校(UCR)での夏季集中英語・アメリカ文化研修出発前に、河相英明さん(機械システム工学科/4年)らUCR研修生が、学長室で決意表明。



- ◆松田文子学長にゲンコヴァ・イヴェリナさん(心理学科/交換留學生/ブルガリア出身)が1年間、万嬌雯さん(国際経済学科/交換留學生/中国出身)ら2名が半年間の交換留学を修了とともに、母国帰国の挨拶。また、ブルガリア・ソフィア大学へ交換留学予定の杉田雄さん(建築学科/3年)、森山幸紀さん(国際経

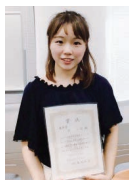


- 済学科/2年)、中国・貴州師範大学へ交換留学予定の荒井賢さん(人間文化学科/3年)、中国・首都師範大学へ長期留学予定の石井一雄さん(人間文化学科/3年)が長期留学の決意表明。

(7月28日)

- ◆キワニスクラブ主催の『留學生日本語スピーチコンテストin広島2016』が広島経済大学で行われ、本学から田雨晴さん(税務会計学科/3年/中国出身)ら3名が出場。張滢滢さん(国際経済学科/3年/中国出身)が優秀賞、イヴェリナ・ゲンコヴァさんが特別賞を受賞。

(7月30日)



- ◆藤本倫史助教及び坪根栄俊秘書主任の引率のもと、井口公太さん(生物工学科/2年)ら3名がINT4週間、長瀬敦子さん(薬学科/2年)ら5名がCAC3週間、アメリカ・カリフォルニア大学リバーサイド校(UCR)で、夏季集中英語・アメリカ文化研修を実施。



(INT 7月31日～9月3日)
(CAC 8月7日～8月28日)

- ◆キワニスクラブ主催の『留學生日本語スピーチコンテストin広島2016』に出場した3名の留學生が、松田文子学長に報告。



(8月4日)

- ◆陳俐珊さん(心理学科/4年/中国出身)ら5名の留學生が、神石高原町立来見小学校で母国紹介などを行い、小学生と国際交流。

(8月5日)

- ◆中国・河北大学と學術教育交流協定を締結。

(8月9日)

- ◆平成28年度後期入学式が挙行政され、12名の編入學生及び4名の交換留學生が入学。



(9月20日)

- ◆国際センター留学生部、留學生会、福山大学孔子学院共催で『第7回日中學生交流クイズ大会』を開催。



(10月15日)

- ◆国際センター国際交流部運営委員会主催の第3回日本語・英語プレゼンテーションコンテストが行われ、日本語の部に6名、英語の部に6名が出場。日本語の部では、賀標さん(国際経済学科/交換留學生/中国出身)が『日本語の魅力』で、英語の部では、劉婧怡さん(人間文化学科/交換留學生/中国出身)がInternational style of ballroom dancingで、それぞれ最優秀賞を受賞。



(10月16日)

- ◆第42回三蔵祭で、留學生会が模擬店を出し、水ギョーザと豚の角煮を販売。

(10月15日～16日)

- ◆関添瑛さん(メディア・映像学科/3年/中国出身)ら6名の留學生が、盈進中学校・高等学校の『頼の浦英語ガイド研修』にアシスタントとして参加。

(10月29日)

- ◆福山市市制施行100周年記念事業「ふくやまインターナショナルスポーツ2016(ふくスポ2016)」が緑町公園とローズアリーナで開催され、本学から30名の留學生と6名の日本人學生と3名の教員が参加。



(10月30日)

- ◆(公財)熊平奨学文化財団の奨學生交流会へ、楊少芳さん(国際経済学科/4年/中国出身)が、趙建紅国際センター留学生部副部長とともに出席。

(11月4日)

- ◆アメリカ・カリフォルニア大学リバーサイド校(UCR)での夏季集中英語・アメリカ文化研修修了生8名が、松田文子学長から修了証書及び奨学金を授与。

(11月10日)



学務部 国際交流課

学友会 短 信

【サッカー部】

- 4月17日～11月6日
2016年度中国大学サッカーリーグI
部リーグ出場
- 6月4日～10月15日
Iリーグ中国2016出場
- 7月10日
2016全広島サッカー選手権大会決勝
トーナメント準優勝
- 8月6日
第40回総理大臣杯全日本大学サッ
カートーナメント出場

【硬式野球部】

- 9月3日～10月16日
平成28年度中国六大学野球秋季リー
グ戦出場

【陸上競技部】

- 6月4日
第49回広島県学生陸上選手権大会出
場
- 7月17日
第1回東部記録会出場
- 9月22日
全日本大学駅伝中国四国予選会出場
- 10月21日
中国四国学生陸上選手権大会出場

【剣道部】

- 7月17日
第10回広島県学生剣道大会出場
- 8月14日
第70回関西学生連盟剣道大会出場
- 9月3日
第63回中四国学生剣道優勝大会出場
- 9月3日
第43回中四国女子学生剣道優勝大会
出場
- 11月3日
第9回天野杯剣道選手権大会出場

【柔道部】

- 8月26日
第35回中国四国学生柔道体重別選手
権大会出場
- 8月26日
第32回中国四国学生女子柔道体重別
選手権大会出場

【弓道部】

- 6月18日
第40回広島県学生弓道親善大会出場
- 8月10日
第64回全日本学生弓道選手権大会出場
- 8月28日
第40回与一を偲ぶ西日本弓道大会出場
- 9月3日
福山大学弓道部OB射会出場
- 9月24日
第42回広島県学生弓道リーグ戦出場
- 10月21日
第62回中四国学生弓道選手権大会出場

【硬式庭球部】

- 6月26日
平成28年度広島県学生庭球選手権大
会出場

【ラグビー部】

- 10月8日
広島県ラグビーリーグ戦出場
- 11月6日
第56回広島県リーグ戦出場

【バスケットボール部】

- 4月17日～7月10日
広島県学生バスケットボール選手権
大会出場

【実戦空手道部】

- 7月17日
2016ルーキーズカップ出場

【二輪部】

- 9月4日
5D出場
- 11月12日
2016 MIMA Night ride 夜駆出場

【スポーツ雪合戦同好会】

- 7月3日
第6回福山オープン雪合戦交流会出場

【ユースホステル部】

- 6月11日, 6月25日
ジュニアリーダー養成講座
「ZENRYOKU チャレンジ」参加
- 8月17日
第40回サマーキャンプ参加
- 8月28日
2016年度夏休み子ども講座
「わくわく体験村」参加

【YRC(ボランティア)部】

- 6月12日
第66回クリーンウォーキングin福山
参加
- 7月3日
第67回クリーンウォーキングin福山
参加
- 7月10日
第79回クリーンウォーキングin松永
参加
- 8月7日
第68回クリーンウォーキングin福山
参加
- 8月28日
第80回クリーンウォーキングin松永
参加
- 9月18日
第23回ゲタリンピック参加
- 9月25日
第69回クリーンウォーキングin福山
参加
- 10月9日
第82回クリーンウォーキングin松永
参加

- 10月30日
第70回クリーンウォーキングin福山
参加

【吹奏楽部】

- 6月4日
ほたるのタベ参加
- 8月21日
第2回オープンキャンパス(体験入
学会)参加
- 9月3日
第23回ふれあい音楽祭参加
- 9月18日
第23回ゲタリンピック参加
- 10月1日
ニチエ祭り芸能大会参加
- 11月10日
ふか放課後子ども教室参加

【演劇部】

- 7月1日
新入生公演開催

【シルクハット majic&juggle】

- 10月22日
八幡神社秋祭り参加
- 10月30日
2016川口学区民ふれあい祭参加
- 11月6日
ロイヤル感謝祭参加

【三蔵祭運営委員会】

- 10月14日～16日
第42回三蔵祭「百花斉放～咲きほこ
れ福大の華～」実施

【学友会執行部】

- 7月7日
第7回七夕まつり実施
- 7月18日
文化創造プロジェクト実施
- 10月14日
秋季学長杯争奪競技大会(三蔵祭)ソ
フトボールの部, ソフトバレーボー
ルの部実施

学務部 学生課

2年連続で「日本語検定委員会特別賞」を受賞！

本学の共通基礎教育は、社会に必要な基礎的能力の向上と汎用的スキルを身につけさせるということを目指しています。日本語検定の取り組みは、その目標に沿って昨年度から始まりました。共通教育必修科目「日本語表現法」の中に位置付けるにあたっては、担当者間で方針と方法を確認しました。オリエンテーションではその意義を説明し、動機付けと自己チェックのために過去問模試を実施し、その自己採点結果を個人評価シートに展開して、日本語検定6領域(敬語、文法、語彙、言葉の意味、表記、漢字)の各自の特長と課題をフィードバックし、学修の意欲付けとしました。また、今年度の前期は平成28年6月18日(土)が日本語検定でしたが、そこまでの授業ではオンデマンドテキスト「日本語の総合的な能力をそなえるための日本語検定講座」を用いて、検定試験に向けた演習を行いました。さらに、学修支援システム「セレッソ」も活用し、演習問題なども提供しました。もちろん、後半の授業は授業科目の名の通り「日本語表現」としての書くレッスンに移るのですが、検定まではそれを目指すということとし、昨年来進めてきました。検定の結果は、成績評価にも反映させています。

様々な備えをして日本語検定の取り組みをスタートさせ、その初年度の昨年は、成績優秀な団体に贈られる「日本語検定委員会特別賞」を受賞し、喜んだのですが、今年もそれと同じ賞を受賞することになりました。2年連続の特別賞受賞となります。うれしいニュースです。検定料の一部は大学からの補助を受けていますので、そういう点でも大きな成果として、学生とともに喜びたいと思います。

本検定は、全員強制ではありません。授業では全員に案内し、既に述べたように授業前半は検定向けに進めますの

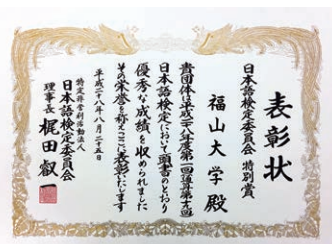
で、検定を受けない者にとってもその学修は深まってくわけですが、検定に申し込んだのは新入生(前期履修者)の51%にあたる439名でした。そして、その検定受検者の52%にあたる223名が3級に合格しました。準認定組を合わせれば、検定受検者の

84%が認定証か準認定証を手にしたことになります。さらに、昨年度と比べれば問題が少し難しかったこともあって、合格率はいくらか下降(69.0%→52.3%)したのですが、他団体と比べれば健闘しており、昨年と同じ団体表彰となりました。

日本語検定で問われる敬語や文法は、実践的なものばかりです。社会に出ると心がけなければならないことばかりです。2年連続の受賞には、それに向けてのスタートラインに立った、そういう意味があるのだと思います。

日本語検定の公認キャラクターは「にほんごん」です。愛嬌のある生き物で、日本語検定の案内や連絡のために、学内の掲示板に時々姿を現しています。

大学教育センター 講師 竹盛 浩二



Robocup2016世界大会へ出場！

平成28年6月30日(木)～7月4日(月)の日程で、ドイツのライプツィヒメッセで開催されたRobocup2016世界大会のロボカップジュニアレスキュー Rapidly Manufactured Robot Leagueに、スマートシステム学科2年次生の花見堂大輔さんが日本チームの一員として参加しました。スマートシステム学科では、初年次教育から市販のキットを使用したロボットレスキュー競技を導入しており、この教材をもとにした1年次生からの積極的な取り組みが実を結びました。(経緯は学長室ブログhttp://blog.fuext.fukuyama-u.ac.jp/2016/06/blog-post_17.htmlに掲載しています)

ロボカップは、ロボットと人工知能の技術を競い合うロボットコンテストで、今年で20回目となる国際的な大会です。我々が参加したRapidly Manufactured Robot Leagueは、30センチ程度の大きさの遠隔操縦するロボットを用いて、様々な障害物コースの踏破性能を競う部門で、今大会より導入されました。日本チームは、愛知工業大学、福山大学、玉川学園の混成チームでメンバーは4名でした。花見堂さんは、主にロボットの整備や改造を行うメカニックとして活躍してくれました。この部門への参加は、アメリカ、オーストラリア、ニュージーランドと日本の4チームで、各チームが競技のために自作のロボットを持

ち寄りました。日本チームは、福山大学の用意した市販キットであるレスキューローラを無線操縦に改造したロボットと愛知工業大学の用意した4つのサブローラを持つロボットを主に使って参加しましたが、両ロボットとも福山大学で製

作した無線ユニットで操縦できるように、花見堂さんが頑張って調整してくれました。大会は3日間開催され、初日のテスト走行では、日本チームの2台はともに用意された障害物コースを次々に突破していくという良

いスタートで始まりました。しかしながら、2日目より直接ロボットを目視することが禁止になり、ロボットに搭載したカメラ映像で操縦しなくてはならないというルールが導入されました。日本チームが用意したロボットは、小型でカメラを搭載するとパワー不足となってしまう、大苦戦を強いられました。操縦技術とチームワークで何とか対処し、ロボットがバランスをとりながら進む平行レール渡りのコースでは、参加チーム中もっとも良い成績を残すことができました。様々な障害物を突破して進んでいくようにロボットを大型化し、強化することが今後の課題として残されました。

慣れない海外の地で、3つの教育機関の学生や生徒の急ごしらえの混成チームでしたが、限られた時間の中で底力を発揮してくれました。海外のチームとのコミュニケーションは英語が必須で、チーム紹介も英語で説明しなくてはならず、とても苦労したようです。しかし、それもまた貴重な経験となりました。この経験を生かして、これからも頑張っていきたいと思います。

スマートシステム学科 准教授 伍賀 正典



「福山市松永はきもの資料館」で大壁画が完成！

「福山市松永はきもの資料館」の駐車場に、壁画を描くプロジェクトが実施されました。このプロジェクトは、平成28年度が福山市市制施行100周年であることと、旧松永市が福山市と合併して50年となることを記念したもので、福山市はきもの資料館、福山市教育委員会、福山大学の共同により、本学の美術部が中心となって壁画作成が進められました。

資料館と駐車場を仕切る大きな塀に壁画を描くプロジェクトは、今年の2月下旬から始まり約1ヵ月の作成作業となりました。まずは、壁画についての検討会が開催され、福山大学からは美術部の学生たちと共同利用センターの鶴崎健一准教授が出席しました。大規模な壁画制作の経験がない中で、美術部員の考えた壁画作成の工程案や図案が提案されました。美術部の提案に対して、本プロジェクトのアドバイザーである地元出身のデザイナーの方から指摘があり、作成工程に壁面洗浄や壁面の補強と下地塗などが加えられました。線画を主体とした図案に対しては、壁画として描きにくく、迫力を出しにくいことなどの指摘とともに改善案がいくつか示されました。また、福山市松永はきもの資料館と福山市教育委員会の方々からは、松永の歴史や事実等の観点から、川に浮かぶ丸太や背景の小屋など図案の中の描写物について指摘がありました。これらに加えて、「学生らしい作品にしてほしい」との要望も出されました。その後、美術部内で壁画の図案はさらに検討され、力強く躍動感のある図案が考えられました。図案の検討と同時進行で、美術部としては経験の無かった高圧洗浄機での壁の洗浄作業や脚立を使った壁面下塗兼補強作業も行いました。これらの共同作業を通じて美術部内のチームワークは高まり、その後の壁画の描画はスムーズに進行しました。図案どおりに描いた後、さらに躍動感を高めるために1体の人物像を追加することになり、3月26日(土)に壁画は完成しました。約1ヵ月の作成作業となりましたが、大きな作品を共同で制作するための連携作業の経験は美術部の中に蓄積され、これらは今後の活動に生かされると思われます。さらに、福山市長からは感謝状が授与されるという栄誉もあり、美術部にとって価値のあるプロジェクトとなりました。

これらの過程に加えて、除幕式の様子などが次のように学長室ブログに掲載されています。



壁画の下地塗り作業

- 2016年3月8日の記事：松永はきもの資料館(あしあとスクエア)の壁画
http://blog.fuext.fukuyama-u.ac.jp/2016/03/blog-post_46.html

- 2016年4月2日の記事：松永はきもの資料館の壁画完成！
<http://blog.fuext.fukuyama-u.ac.jp/2016/04/blog-post.html>

- 2016年5月6日の記事：松永はきもの資料館の壁画アート除幕式
<http://blog.fuext.fukuyama-u.ac.jp/2016/05/blog-post.html>

- 2016年5月10日の記事：美術部長が学長を表敬訪問
http://blog.fuext.fukuyama-u.ac.jp/2016/05/blog-post_10.html

また、ブログにはメディア・映像学科の学生が制作した壁画制作過程の紹介映像も掲載されています。

メディア・映像学科 教授 田中 始男



完成した壁画の前で記念撮影

「留学生日本語スピーチコンテストin広島」で優秀賞及び特別賞を受賞！

去る平成28年7月30日(土)、キワニスクラブ主催の「留学生日本語スピーチコンテストin 広島2016」が、広島経済大学立町キャンパスで行われました。県内の大学や大学院で学ぶ5つの国と地域出身の留学生計18名が参加しました。

本学からは、留学生3名が事前の作文選抜で選ばれ、当スピーチコンテストで1名は優秀賞、もう1名は特別賞を受賞しました。張滢滢さん(国際経済学科/3年次生)は、「私が日本に留学した理由」をテーマに「かつて、アジア青年リーダーシップサミットで世界各国の若者同士とのディスカッションや、ウクライナの広告会社でのインターンシップの体験から異文化交流の重要性に気づき、自分が留学した理由は「真の日本文化を理解し、また自ら窓口になって中・日の若者のコミュニケーション促進に役立ちたいからだ。」と明かしました。ゲンコヴァ・イヴェリナさん(心理学科/ソフィア大学交換留学生)は、ピンク

色のゆかた姿で同じブルガリアのソフィア大学から来た先輩のエリーさん(2014年福山大学交換留学生で、現在は尾道高等学校で英会話授業のティーチングアシスタント(TA)を勤めています)たちの声援の中、「心を満たすスープ」というテーマで、恋愛に消極的な日本の若者たちに効く「恋のスープ」レシピを披露しました。「恋のスープ」レシピは、次のとおりです。「①先ず鍋に好きな人への親しい気持ちと友情を入れて混ぜる。②次に理解と寛大さを加えて、じっくり火にかける。③最後に、笑顔と感謝の言葉を好みで加える。」と恋人同士がいつまでも幸せにいられるようになるそうです。日本人の場合は、さらに「恥をかくことを恐れず、思い切って自分の心の内をさらけ出す。」勇気をスパイスとして加える必要があるといいますが、皆さんはいかがでしょうか。田雨晴さん(税務会計学科/3年次生)の発表テーマは、「時間泥棒」です。「日々進化している情報機器やソーシャルネットワークが、実は知らず知らずのうちに私たちの時間を盗む泥棒と化している。」と、現代人が犯しがちな時間の無駄遣いを一喝しました。ちなみに、田さんはスピーチコンテストでの受賞は逃しましたが、6月にマイナビ実施の全国一斉Webテスト(就職適性テスト)で、学内第7位の好成績を修めました。

本学の期末試験直前でもありましたが、3名ともよく頑張りました。今後とも、留学生たちのご活躍を期待したいと思います。

国際センター 准教授 趙 建紅



中野保男先生のご逝去を悼んで

平成28年3月28日逝去

中野保男名誉教授が、平成28年3月28日(月)に逝去されました。享年91歳でした。

中野先生は、昭和63年から平成11年まで福山大学経済学部経済学科での教育及び研究にご尽力をいただきました。平成10年3月に福山大学を定年退職された後も、特任教授として平成11年3月まで教壇に立たれご活躍されました。また、平成10年4月には名誉教授の称号も授与されています。

中野先生の経歴について紹介いたしますと、昭和27年3月に京都大学経済学部を卒業後、同年4月に京都府労働経済研究所助手を皮切りとして、昭和37年8月に京都府立中小企業指導所経営指導部に配置換え、昭和40年4月に大阪女子大学講師として着任され、昭和41年4月に同大助教授、昭和47年4月に同大教授、昭和63年3月に同大を定年退職され、同年4月より福山大学経済学部経済学科教授に就任されました。

福山大学における講義科目としましては、主として労働経済論を担当していただき、研究されてきた分野はイギリスの労働史でした。また、中野先生が行われました成果について、簡単に紹介させていただきます。

- 昭和57年 路地裏の大英帝国 共著
- 昭和58年 労働史研究 共著
- 平成2年 論文 わが国における英国友愛協会史の虚妄の議論

福山大学では特別な役職には就かれておりませんでした。研究・指導について若手教員には自らの体験を通して大変厳しく指導され、一方では大変明るい性格で何事にも相談に乗るなど多くの教員や学生に慕われていたそうです。

ここに哀悼の意を表するとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

国際経済学科 教授 尾田 温俊

平川修治先生のご逝去を悼んで

平成28年8月9日逝去

平川修治名誉教授が、平成28年8月9日(火)に逝去されました。先生は昭和5年8月生まれで、享年87歳でした。

平川先生は兵庫県神戸市のご出身で、昭和29年3月に京都大学工学部土木工学科を卒業され、白石基礎工業株式会社(現オリエンタル白石株式会社)に入社後は、一貫してケーソン基礎の設計・施工合理化に関する研究開発に取り組まれました。また、昭和56年1月には、京都大学から「ニューマチックケーソン基礎の設計合理化に関する研究」論文で工学博士の学位が授与されています。

平川先生は、昭和52年に福山大学工学部土木工学科に教授として着任されましたが、福山大学が開学して間もない頃ですから、施設も十分に揃わない中で整備充実に意を注がれ、教育と研究にご尽力されている姿が思い浮かびます。教育面では、土木施工学などの講義を担当され、企業での現場経験を踏まえた講義は学生からの評判が高い一方で、受講態度などの躰面では厳しいことでも有名でした。また、その反面で学生と連れ立ち、お酒の飲み方も教育されていたことが懐かしく、ついこの前のことのように思い出されます。さらに、研究面では、ニューマチックケーソン工法に関する研究の第一人者で、掘削技術と送気設備の技術開発は高く評価されています。また、時代のニーズを鑑

みて、建設廃泥の有効利用に関する実験的研究に取り組まれていたことが思い出されます。

福山大学の公務としては、昭和55年～57年と平成4年～6年のそれぞれの年度に学科主任と学科長を務められ、土木教育の充実に力を注がれました。また、平成8年の大学院博士課程の開設に向けては、土木工学と建築学を融合した「地域空間工学専攻」の申請にもご尽力され、常に「人事の平川」と呼ばれるように学内外を奔走されていました。

平川先生のご逝去に接し、晩年の先生の少しはにかんだ笑顔を思い出しながら、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

建築学科 教授 田邊 和康

後援会情報 福山大学後援会役員会(理事会)開催される！

三蔵祭(大学祭)期間中の平成28年10月15日(土)の午前11時から、福山大学後援会役員会(理事会)が19号館1921教室で開催されました。森静会長の挨拶に続いて、松田文字学長の挨拶があり、その後、会長・副会長・監事・理事の自己紹介を行い、9月中旬に全国16会場で開催された後援会地区別総会の報告がありました。なお、平成28年度理事から副会長が新たに選出されました。また、期間中は大学会館前に後援会関係者の休憩用テントも設置されました。

総務部 庶務課



入試広報室から

◆入試説明会

高等学校進路指導担当者を対象に、福山大学・福山平成大学の入試説明会を平成28年6月6日(月)～10日(金)及び6月30日(木)の計6日間、近畿・中国・四国・九州・沖縄の10会場で開催しました。本学会場では、大学参観を兼ねた入試説明会を実施し、参加教員の事前希望で因島キャンパスや各大学の施設・設備を見学後、学校法人福山大学宮地茂記念館で両大学の入試説明会を行いました。参加者は、計13県98校101名でした。

◆進学相談会(業者主催)

業者主催の進学相談会において、本年度は中国・四国・九州・沖縄の21都市41会場で高校生・保護者・教員、総計991名の進学相談に応じました。

◆Open Campus(見学会・体験入学会)

毎年恒例の見学会を平成28年7月2日(土)・9月3日(土)、

体験入学会を7月17日(日)・8月21日(日)に開催しました。見学会の参加者は、7月2日(土)は高校生116名、保護者74名、計190名、9月3日(土)は高校生181名、保護者120名、計301名でした。体験入学会の参加者は、7月17日(日)は高校生255名、保護者185名、計440名、8月21日(日)は高校生454名、保護者263名、計717名でした。福山平成大学においても、平成28年6月25日(土)・9月3日(土)に見学会、7月24日(日)・8月20日(土)に体験入学会を開催しました。見学会の参加者は、6月25日(土)は高校生102名、保護者41名、計143名、9月3日(土)は高校生81名、保護者26名、計107名でした。体験入学会の参加者は、7月24日(日)は高校生198名、保護者81名、計279名、8月20日(土)は高校生219名、保護者82名、計301名でした。

◆高等学校PTA・教員・生徒の本学訪問

平成28年7月初旬からの福山大学への訪問は11校601名、福山平成大学への訪問は8校451名です。(平成28年11月末現在)

平成29年度前期入試A日程〔特別奨学生A選抜含む〕

試験のある学部	福山大学	福山平成大学
	経済学部・人間文化学部・工学部 生命工学部・薬学部	経営学部・福祉健康学部・看護学部
出願期間	平成29年1月5日(木)～1月24日(火)消印有効	
試験日	平成29年1月31日(火)～2月3日(金)※試験日自由選択制	
合格発表日	平成29年2月9日(木)	
試験地	【1/31～2/3】 本学(福山大学・福山平成大学)・福山(宮地茂記念館)・岡山・広島・山口・福岡 【1/31】 鳥取・浜田・宮崎 【2/1】 米子・大分 【2/2】 静岡・京都・熊本 【2/3】 名古屋・神戸・佐賀 【1/31・2/1】 東京・大阪・松山・高知・鹿児島 【2/2・2/3】 松江・高松・今治・小倉	

◇入学金減免制度について◇

福山大学及び福山平成大学の同窓生の子弟及び在学生の兄弟に対して、就学時の経済的支援のため、入学金を減免する制度を実施しています。同窓生の子弟及び在学生の兄弟とは、入

学者の親、兄弟、姉妹のいずれかが福山大学及び福山平成大学の卒業生又は在学生(留学生を除きます)です。詳細については、入試広報室までお問い合わせください。

編集後記

学報第150号は、「収穫の秋」にふさわしく内容盛りだくさんとなりました。トピックスの7件をはじめ、大型イベントである三蔵祭の様子や様々な地域連携活動などをお伝えすることができました。また、平成28年10月に開催された三蔵祭は天候にも恵まれ、多くの方にお越しいただきましたが、その中で頑張る学生の姿を本号でお伝えできたと思います。さらに、頑張る福大生のコーナーでは、学生が世界大会に出場するなど学内外で活躍する学生の姿を紹介することができました。今後も、本学の様子をわかりやすく伝えていきたいと思っています。

発行 福山大学
編集 福山大学広報委員会
〒729-0292 広島県福山市学園町1番地三蔵
TEL(084)936-2111 FAX(084)936-2213

<http://www.fukuyama-u.ac.jp>